

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	アウトリーチ研究事業「漢方の基礎学習と薬草園見学会」2021				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	渡辺 賢二
	研究分担者	所属・職名	薬学部・講師	氏名	恒松 雄太
		所属・職名	薬草園・講師	氏名	佐藤 道大
		所属・職名	薬草園	氏名	山本 羊一
	発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	渡辺 賢二

講演題目	アウトリーチ研究事業「漢方の基礎学習と薬草園見学会」2021
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>薬学部生薬学・天然物化学分野並びに漢方研究施設で、24年間にわたり、年3回一般市民を対象として「漢方の基礎学習と薬草園の見学会」を開催してきた。本講演会は午前中漢方医学の基礎について漢方を駆使する臨床医の経験を交え講演を戴き、午後は薬草園を見学するものである。大学のアウトリーチが叫ばれて久しいが、参加者を本学の固定客として囲い込みを行う上で、往復葉書によって案内をする手法を繰り返した。新規顧客の開拓としては、「県民だより」掲載有無が大きかった。参加者数は漸増し、年延べ参加者数は約1500名を越えた。参加者の居住地は草薙周辺に限定されず、県東部から浜松地区まで静岡県全体に分散している。住所を把握し往復葉書による案内を実施している人数は約1300名。不参加も含めた返信数は毎回650通を超える。</p> <p>講演のテーマは毎年異なっているが、本年度は漢方の基本に立ち戻り「気血水」をタイトルに据えた。生命エネルギーを意味する「気」について、アトピーが御専門で、東洋医学会の重鎮、熱海青木クリニック院長二宮文乃先生に先ず第一回として6月を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。第二回の8月には本学から国際医療保険大学熱海病院に移られた小野孝彦先生に、水をさばく」という観点から「水」について、先生のご専門は腎臓で、正に利水が様々な内臓疾患に関わることを述べて頂く予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大が収まらず同じく中止とした。第三回の10月には玉嶋血液内科・漢方診療所所長に、文字通り「血」について、漢方医学の観点と、西洋医学の臨床における「血が滞る」とどのように具合が悪いのか講演して頂く予定であったが、依然として新型コロナウイルス感染拡大が収まらずやむなく中止とした。毎回先ず北京で中国医学を修めた大武 光氏（株式会社ツムラ）が、そこに続く臨床家のご講演で話題となる漢方処方に用いられる生薬類の効用から説明して下さる予定であった。薬草園の見学に際しては、何分多人数のため本学教員だけではカバーできず、京都大学薬学部薬品資源学薬草園担当准教授伊藤美千穂女史、北里大学名誉教授吉川孝文先生、アロエ製薬元取締役で薬科大学出身の秋山喜彦氏を客員講師として、本学講師 恒松雄太、佐藤道大、および薬草園 山本羊一が渡辺賢二とともに薬草園における解説を予定していた。6月、10月には日本薬剤師研修センターが実施する、薬剤師の漢方・生薬認定薬剤師制度の薬草園研修を兼ねて、一般市民修了後に研修薬剤師数名に対して座学を行っており、レポート作成の方法や薬用植物の観察・記載法の基礎について解説を行う。来年も一昨年と同様に多くの受講者が受講するものと期待される。</p>